

競技別要項【軟式野球競技】

1 参加資格

- (1) 団員：令和8年度スポーツ少年団登録団員 ※小学生に限る
指導者：令和8年度スポーツ少年団登録指導者
コーチ：令和8年度スポーツ少年団登録指導者又は役員・スタッフ
- (2) スポーツ安全保険に加入している者

2 チーム編成

- (1) 指導者は、チーム代表者1名及び監督1名の計2名を必置とする。
- (2) コーチは計2名までとする。
- (3) 団員は計25名までとする。
- (4) 指導者、コーチ、団員とも同一単位団の所属であること。ただし、団員不足等により単独でのチーム編成が困難な場合に限り、合同チームでの参加を認める。

<合同チーム編成における留意事項>

- ・あくまでも少人数の単位団に本大会への参加機会を与えるための措置であり、勝利至上主義のためのチーム編成であってはならない。
- ・単位団の代表指導者は、合同チーム編成に関する趣旨や内容等について、事前に関係する児童・保護者に説明し、了承を得ること。
- ・合同チームは各地区連絡協議会内の単位団で編成すること。
- ・合同チームのユニフォームは、各選手が所属する単位団のものを使用してもよいが、背番号は「競技規則及び方法」によること。

3 その他

- (1) 参加申込後の棄権は認めない。
- (2) 荒天の場合は、開催市町村スポーツ少年団に連絡し、開催の有無を確認すること。
- (3) 雨天等大会運営に支障がある場合は、大会本部の判断により、試合のイニングを減じたり、中止したりすることがある。
- (4) 団員章を貼付すること。
- (5) 各チームは、審判員4名を出すこと。
- (6) 各チームは(5)のうち、球審のできる者を1名出すこと。
- (7) その他、「公認野球規則」「全日本野球連盟競技者必携」「学童野球に関する事項」を適用する。また、各グラウンドにおいては、特別ルールを採用する場合もある。
- (8) 各チームの代表者はすべての責任を持つこと。また、負傷については応急処置をすること。

競技規則及び方法

1 大会特別競技規則

- (1) 本大会の試合は、原則として6回戦及び90分の試合制限時間を採用して行う。
(90分試合制限とは、90分を過ぎたら新しいイニングには入らないことを示す。)
- (2) (1)を原則とするが、6回終了時又は90分を経過して同点の場合は、2回までを限度に、次の『タイブレーク方式』を行う。
《タイブレーク方式（特別延長戦）》
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死1・2塁の状態にして、投手の投球制限を遵守のうえ、1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。
なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる団員の交代は許される。
- (3) (2)を適用しても決着がつかないときは、抽選によって勝敗を決定する。
- (4) 抽選方法は、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。
- (5) 得点差のコールドゲームは採用しない。
- (6) 投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。
ペナルティは、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。
- (7) 参加団員に対し、全員が各試合に出場できる機会を与えることが望ましい。
- (8) 抗議権（アピールに限る。）は監督だけとする。
- (9) 本規則に定められていない事項が生じた場合は、審判員協議の上、大会審判長の権限により処理する。
- (10) 投手の投球制限
 - ①肘・肩の障害防止を考慮し、1人の投手が1日に投球できるのは70球（4年生以下は60球）以内とする。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - ②その試合中に70球（4年生以下は60球）以内なら投手が一旦他のポジションに移動し再度投手に戻ることはできる。
 - ③走者に対しての牽制球、投球練習（試合中以外も含む。）はカウントしない。
 - ④試合中、ベンチ前での投球練習は禁止する。

2 危険防止のため次の用具を使用する。

- (1) 打者、次打者、走者及び走塁指導者は両側にイヤーフラップのついた打者用ヘルメットを着用する。
- (2) 捕手はマスクが分離した捕手用ヘルメットを着用すること。また、プロテクター、レガース、ファールカップを必ず着用すること。
- (3) 上記の各用具及びバットは全日本軟式野球連盟公認(JSBBマーク入り)の物を使用すること。
- (4) 素振り用の鉄棒（鉄パイプを含む）、バットリングは使用してはならない。
- (5) 金属スパイクの使用を禁止する。
- (6) ボールボーイもヘルメットを着用する。

3 競技運営に関し、次のことを規定する。

- (1) 競技者の背番号は、算用数字で0番から99番までとし、代表団員（主将）は10番に統一する。なお、必ず団員章を着用する。
- (2) 試合中のダッグアウト（ベンチ）に入れる人員は次のとおりとする。

参加申込書に記載されたチーム代表者、監督、コーチ2名、団員25名、スコアラー（団員以外とし、シートノックやマネージャー行為など記録に関する以外の行為は認めない。）、熱中症対策スタッフ2名の計32名とする。

なお、スコアラー、熱中症対策スタッフがベンチ入りする際は大会本部へ申請を行うこと。
- (3) 監督の背番号は30番に統一する。コーチがベンチ入りする場合、背番号は28番と29番とし、監督、コーチは選手と同一ユニフォームを着用し指導者章を着用すること。また、チーム代表者、スコアラー、熱中症対策スタッフの服装は私服（スポーツに相応しい服装）とする。
- (4) ダッグアウトの中でメガホン1個の使用を認めるが、携帯用マイク及び携帯電話の使用は禁止とする。
- (5) ダッグアウトは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
- (6) 試合前のフィールドイング練習は5分間とする。（ノッカーも必ずユニフォームを着用すること。）なお、大会運営の関係で時間を短縮したり、フィールドイング練習なしで試合することもある。
- (7) 球場内でのフリーバッティングは認めない。トスバッティングは相手チームのフィールドイング練習中に限り、外野のファウルグラウンドで行うことができる。
- (8) 第1試合のチームは、試合開始予定時刻30分前、第2試合以降は、前の試合開始1時間後、又は、5回終了時に本部へメンバー表5部（必ずふりがなを付けること。）を提出して登録メンバーの照合を受けること。なお、その際、代表団員（主将）によって攻守の決定を行う。
- (9) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始時刻を早める場合がある。
- (10) 試合開始時刻になっても会場に来ていないチームは、原則として棄権とみなす。
- (11) 試合中、監督はグラウンドに入って指示を与えることができる。
- (12) ボークは1回目から判定する。
- (13) 攻守交代は駆け足で行うこと。
- (14) ファウルボールの処理については、1塁側は1塁側チームが、3塁側は3塁側のチームがそれぞれ拾い合うこと。捕手の後方は、攻撃側のチームが拾うものとする。なお、拾ったボールはボールボーイに渡し、最後に球審に戻るようにする。
- (15) チーム並びに応援団は、連盟の競技者規定に抵触しないように注意を徹底すること。特に投手が投球モーションに入ったら、応援を止めなければならない。

また、好ましくない応援や野次（鳴り物は禁止）に対しては、審判員がそのチームに対し注意を行う。

連 絡 事 項

1 指導者会議について

- (1) この会議には、各チームの監督及び代表団員（主将）が出席すること。
- (2) この会議に出席しないチームは、原則として大会を棄権したものとみなす。
- (3) この会議での説明及び決定した事項は、チーム全員と応援関係者に必ず周知徹底させること。
- (4) 会議の主な内容
 - 【1】参加申込書の記載事項の確認（参加申込書提出後の団員の追加及び変更は原則として認めない）
 - 【2】チーム代表者及び監督、コーチの交代の確認
 - 【3】大会競技規則等の確認
 - 【4】その他大会の運営に係る必要事項の説明、確認

2 開会式・閉会式について

- (1) 参加チームは、開会式閉会式には必ず参加すること。
- (2) 開会式及び閉会式におけるチーム代表者、監督、コーチ、団員の服装は、競技時の服装とする。
- (3) 開会式の入場行進は、単位団プラカード、単位団旗、団員の順とし、団員は2列縦隊で行進する。なお、入場行進は実施しないこともある。
- (4) 行進時において本部席前通過時の敬意の表し方は、敬意を損なわない限り自由とする。
- (5) 参加申込書に記載のある団員以外の団員（ユニホームを着用した者）の参加を認める。ただし、試合中のダッグアウト（ベンチ）入りは認めない。
- (6) 代表団員（主将）宣誓は、開催地区代表チームの代表団員（主将）が行う。各チームの旗手は、代表団員（主将）宣誓の時、宣誓者を中心に半円形に集まり、宣誓時に旗を斜め前方に倒し、宣誓終了後、元の位置に戻る。

3 抽選方法について

試合終了時に出場していた選手により、○印・×印を記入した札を封筒に入れ、審判員立会いの上、球審が先攻チームから守備位置順に1枚ずつ交互に選ばせ、ライトの守備位置選手が引き終わったら、両チームの監督が封筒を集め、開票し○印の多いチームを勝ちとする。

4 その他

大会の運営、進行については、大会本部の指示に従うこと。